

東日本大震災復興支援ツアー 2018 企画書

1. 提案

4 年目の東日本大震災復興支援ツアーの実施を提案します

2. 背景

平成 27 年から 3 年連続で東日本大震災復興支援ツアーを企画・実施してきました。これは、この地域で育ち、将来の日本、世界で活躍するリーダーを輩出する地域でありたいと願い、地域貢献活動として展開しています。

当初は 2 年～3 年間の取組みとの想定で実施してきましたが、この取組みが新聞記事に取り上げられるなど、地域からの期待の声が高まっていると実感しています。加えて、このツアーを受け入れてくださっている東北からも期待の声が寄せられています。

3. 実施概要

- ①対象者 多治見北高校の在校生に加え、多治見市内に通学する高校生 20 人以下を対象とします
加えて、学校関係者及び同窓会役員 およそ 10 人が帯同します
- ②実施日 7 月末頃に学校関係者と日程調整します（昨年は 7/29～30 に実施）
- ③実施経費 1,200,000 円 うち 900,000 を協賛金収入で充当します

4. 新聞掲載（中日新聞 9 月 9 日朝刊 東濃地域版）

2017 年(平成 29 年) 9 月 9 日(土曜日)

「前向きな姿に感銘」

多治見北、西高生 東北被災地を訪問



多治見北高校と多治見西高校の生徒十八人が七月下旬、東日本大震災の被災地を訪れ、現地の高校生と交流して復興の状況などを学ぶ。一泊二日の研修ツアーに参加した。生徒たちは「感じたことを忘れずに伝えていきたい」と感想を語った。

（篠塚辰徳）

ツアーは多治見北高校同窓会が二〇一五年から主催し、今年で二回目。今回は、船渡、釜石市をめぐり、小宮城県石巻市、女川、南三陸町、気仙沼市、岩手県大船渡、釜石市をめぐり、小

現地高校生と交流し現況学ぶ

釜石市の被災地を訪れ、現地の高校生と交流して復興の状況などを学ぶ。一泊二日の研修ツアーに参加した。生徒たちは「感じたことを忘れずに伝えていきたい」と感想を語った。

学校や津波伝承館、防災センターなどを訪れた。

釜石市では、当時小学四年で被災した現地の釜石高校の生徒五人と交流した。

テーブルを囲んで昼食を共にしながら、震災当時の状況や復興への思いなどを聞いた。

七日、ツアーに参加した多治見北高校二年青山茜音さん(も)、同年土本倫太郎さん(も)、同年高橋睦生さん(も)と多治見西高校二年浜田優華さん(も)、同年田村優有さん(も)が市役所を訪れ、古川雅典市長に印象的な場面やツアーの感想などを報告した。

土本さんは「テレビで見ただけでなかった場所を自分の目で見てくることができてよかった。何かしらの形で被災地に携わり、支援をしていきたい」、田村さんは「被災した同世代の高校生の前向きな姿に感銘した」と語った。

釜石高の生徒と話し合ったツアー参加者ら
岩手県釜石市で（多治見北高同窓会提供）

4. 東北からのメッセージ

①大船渡津波伝承館 館長 齊藤賢治さん

東日本大震災より 7 年になろうとしております。被災地以外の皆様は遠に忘れ去った事だと思っている所でございます。

自然災害としては遠方で起きた事として忘れても致し方の無い事と私も思っているところです。しかし、忘れてはならないのは自分たちの身の回りにどんな禍が降りかかるか分かりません。私達を取り囲む環境の中でどんな危害要因が潜んでいるか分からない事が多くあります。考えられる身の回りに起きうる自然災害は多くあります。雨による川の氾濫、土砂崩れ、竜巻、落雷、等々、津波の場合は高い所に上がればいいのです。しかし問題は、内陸部に生まれ育った方々は津波を心配する必要が無い生活をしてきたため避難行動を起こすと言う習慣が全く身につけておりません。大船渡津波伝承館に来られた学校の先生のお話ですが、あの巨大な地震が有っても逃げなくてはならないと言う思いが湧きおこらなかったと言うのです。警報によって生徒共に避難して事なきを得たようですが、実は恐ろしい事なのです。

被災地の中では、事業所の社員達が学校の生徒さんが犠牲になった所もあります。聴くところによりますと、経験の無いリーダーだったと言う事だったようです。避難指示命令を出すどころか作業を続けなさいとか、ここは大丈夫だとか、誤った判断をして多くの犠牲者を出しているパターンが有るようです。三陸沿岸に生まれ育った方の多くは高い所に避難すれば助かる事は知っていたはずですが。しかしながら 2 万人近い方々が亡くなっております。地震津波が発生すると通常考えられない事が身の回りの起きて逃げる行動に入れず犠牲になったりします。三陸沿岸に生まれ育つ方でさえも逃げられなかった方、逃げようとしなかった方、が多くいらっしゃいます。内陸部に生まれ育って生涯その場で暮らせば大きな問題には繋がりにくいと思いますが、沿岸部に行楽で、出張で、或いは仕事を求めて移り住むことが有ります。

津波に限らず私達の環境の中には自然災害が待ち受け突如として襲ってきます。自然災害の恐ろしさを知りどんな場合でも対応できる能力を身に付けて欲しいと思います。

②気仙沼 浜の家 女将さん

皆さんの気仙沼ツアー、一度ならともかく毎年足を運んで来て頂いている事はスタッフ一同感謝の言葉しかありません。そして学生の皆様も真剣に震災について学ぼうとしている姿はとても素晴らしい事だと感心しております。今日も隣の仮説店舗の酒屋さんがやっと再開出来ました。しかしまだまだ普通の暮らしができてないかたもいらっしゃいます。

私達にとっては 7 年とは言え昨日起こった事のようにも感じております。でもこれから何も無いわけではなく、どこに起こるか分からない様々な出来事。壊してしまったのは自然の力。でも立ち直せたのは人の力でした。色んな形で人の力が動き、それが大きなパワーになることを私達は学びました♪

沢山の方々への感謝の🌸☺🌸一つ一つが宝物です。改めて、支援してくださったすべての人へ、、、ありがとうございます☺♡
🌟です☺♡